

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	コムスのほほえみ元町	評価実施年月日	平成19年5月31日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	原田 純代	記録年月日	平成19年5月31日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>高齢者の尊厳と自立を守るを基本理念とし、お客様一人ひとりの自立支援を目標にしている</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々の申し送り時に理念の唱和を行い、職員は自立支援と自己決定を念頭に取込んでいる</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ホーム玄関内に理念は掲示しており来客訪問時にはいつでも見ていただけるようにしている。又、運営推進会議にても理念の説明を行っている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会に加入し、地域行事や会議などに積極的に参加し、地域ボランティアさんにもホーム行事に参加して頂いている。今後も馴染みの関係を作り上げていく</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入後は積極的に地域行事に参加している。又地域の方々との交流も徐々に増えて来ている</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>今の現状では地域密着型サービスとしての地域貢献の取り組みまではできていない</p>	○	<p>今後は自分たちの出来る事から地域での役割を話し合っ、少しでも貢献できるような取り組みを行っていきたい。運営推進委員会をベースに、お互い協力して取り組めるよう、話し合いを行っている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>過去の自己評価や外部評価の内容は職員全員で共有化行い質の向上に向け改善点は具体的な話し合いの元前向きに改善を行っている</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>定期的な運営推進会議を開催し、都度参加者各位の率直な意見やアドバイスを頂き、サービス向上に活かすように取り組んでいる</p>	○	<p>今後は運営推進会議でも取り上げていく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村との連絡は小まめに取り、情報などを活用できるよう取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>制度改正やその内容は職員に伝達し、定期的に勉強会も行い一人ひとりが理解できるように取り組み、又活用できる状況のお客様がいれば支援行う</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待防止関連法についての勉強会は既に行っており、身体拘束廃止委員会において毎月、本社に現状報告行い今後の取り組みにもアドバイス貰い、身体拘束・高齢者虐待ゼロに向け日々取り組んでいる</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時は十分な時間を取り契約内容の読み上げ説明行い、不安・疑問点が無いように理解・納得の上契約行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者がいつでも意見が言えるよう玄関ホールに意見箱を設け、本社への申し立て窓口や外部への苦情申し立てへの相談窓口掲示もある。又スタッフルームにはいつでも入れるので、直接に意見が言える雰囲気作りも行っている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月「元町通信」を発行し個々の近況報告も同時に記載し毎月のご様子をお伝えしている。又必要時には都度個別の対応にてご家族に連絡行い報告や相談行い、ご家族からの要望も聞く機会を作っている		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様が利用しやすいように、各ユニット出入りに国保連の外部団体相談窓口を明記しているポスターを掲示している。家族会や来訪時にも意見を聞くようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ホーム内会議開催し、運営・管理上の報告や変更等職員に伝え、意見交換や運営上の提案等を話し合う場を設け、反映している		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の協力のもと、勤務調整行い状況の変化に対応出来るような人員の確保を行っている		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動・退職に際しては極力利用者への影響が無いように配慮は行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>入社時の導入研修や社員対象の本社研修を定期的に行っている。又地区での研修や講演会への参加促しも行っている</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者とのネットワーク作り等の活動は運営者・管理者には定期的により勉強会や情報交換を行っているが職員間での交流の機会は少ない</p>	<p>○ 今後は他企業とのネットワークを活用し相互訪問等で職員同士の交流の機会を作りサービス向上への取り組みを行いたい。また、職員の参加への意識向上も促していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームには横になれるスペースを設け、休憩時にはゆっくりと休める。定期的に個人面談も行い精神面でのフォローもしている。又企業内に相談窓口を設けておりいつでも利用出来る</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各自の向上心を認め、資格取得などを奨励している</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居に至るまでの面談にて本人の意向を伺い不安感や問題点などの把握を行い職員が共有し入居時のケアに生かしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居に至るまでの面談にて家族の不安感や意向を伺い対応行っている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族とも今何を求めているかの見極め行い、他のサービスも視野に入れた情報提供も行った対応している		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	環境の変化に戸惑いが強い方には入居に至るまでに何回かホームに来て頂き、ホーム内の様子や他の利用者との交流の機会を作り環境の変化による不安感の軽減を行ない入居に向かう事も出来る		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の暮らしの中から関係を築き、得られた情報は職員が共有し今後に向けたケアに取り組んでいる		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には定期的に状況報告行い今の状態を理解して頂き、ホーム来訪時や家族会などで今後に向けての意向も聞く機会を作っている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居に至るまでの生活歴を伺い理解し、家族とのより良い関係作りの継続を支援している		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	今までの生活の中での習慣を大切にし、本人の希望に添えるような支援行っている。又家族以外のお友達などの来訪もあり親しい方とも関係が途切れないうに配慮行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日中、居室に一人で居る時間が長くならぬように声掛け行いレクや行事に参加し他利用者との関係作りが円滑に行われるように配慮している		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後もご家族様が相談など必要な時には連絡できる体制になっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望全ての聞き入れは出来ていないが外出希望や趣味などは意向に沿った支援しており、なにか問題があれば職員カンファ等で検討しご本人の自己決定に結びつような話し合いを行っている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメントで生活歴や環境を把握して書式化しいつでも職員が見れるようにしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの1日の過ごし方を尊重し、心身状態は1日2回のバイタル測定で把握を行っている。又、今出来る事をして頂けるように声掛け支援を行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は自立支援をもとに課題を明確にし関係者との意見交換行い作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は短期目標・長期目標を具体的に記載し、変化有る場合は都度の見直しを行い、より良いケアを目指して関係者話し合いの元作成行っている		
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々の様子や状況変化は個人記録に記入しカンファレンス時に情報の共有化行っている。又、定期的に職員一人ひとりがモニタリング実施し現状の把握を行い介護計画見直し時に反映している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟な対応を行いサービスの提供を継続している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会参加後は徐々に地域とのコミュニケーションが出来つつある。又、ボランティアの協力も得られ行事への参加も行われている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	理美容サービスやネイルサービス等の利用や外出時の交通機関の利用に留まっている。	○	希望があればいつでも利用できるよう情報収集を行い活用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等にて地域包括支援センターとの情報交換を行っている状況で、協働までの支援は出来ていない。	○	運営推進会議をベースに地域包括支援センターとの情報交換を行い必要に応じて協働していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居以前からのかかりつけ医の継続受診を行っている。又、家族やご本人希望で他の医療機関への受診も支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医への受診を行い状況の変化にも即対応して頂いている。又、定期的に勉強会も開かれ認知症への理解を深める機会もある。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的に訪問看護を受け、日常の健康管理や医療活用へのアドバイスを頂いている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	提携医があり体調不良時には直ぐに対応できる体制にある。又、入院時は病状の把握に努め関係者との情報交換にて退院に向け連携を取っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在は重度化した方や終末期の方はいないが、今後起こりうることとして認識し家族の意向を確認しながら対応方針の共有化を行う。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後起こりうることとして認識し、終末期の医療についての連携体勢作りは確認出来ている。	○	今後の変化に対応できるよう勉強会や講習会等に参加し今以上に体制を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替え時は情報提供を行いダメージを最小限にするための支援行う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報取扱についての勉強会を開き職員一人ひとりが言葉遣いや対応に配慮行っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の希望を優先し会話の中や行動等で自己決定できる場面をつくるようにしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々のレクメニューはあるが、その日の状況や希望に添った柔軟な支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望により理美容は定期的に行っており、日々の身だしなみやお洒落(ネイルサービス)を楽しむ支援を行っている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	メニュー作りには希望を取り入れ、日々の食事準備時には野菜の下ごしらえ等のお手伝いをお願いしている。又食後の食器拭きやお膳拭き等もして頂いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在タバコを吸われるお客様は居ないが、入眠時に寝酒程度の飲酒をされる方が居るので好みのお酒は準備している。又おやつ等も希望により好みの物を提供している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し失敗や混乱無いように定期誘導や状況で誘導行い、医師の指示による服薬調節の支援行っている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調や希望を聞き、定期的な入浴の声かけ行い浴室は温泉の雰囲気作りにて楽しく入浴して頂けるように工夫行い支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の休息には自室や和室を使われ横になったり寛いだり出来る場所がある。又今での生活リズムを乱さぬような配慮も行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	今までの生活習慣等から畑作りや花作りの好きな方にはホーム庭にてコーナーを作り楽しんで頂いている。又レク等で作品作りを行い完成する事で充実感を得て頂いている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望にて、ご家族様の了解の元、ご本人が小額のお金の所持をしているお客様も居る。又希望外出での買物も行える		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日、気温・体調見て希望者には散歩や買物への外出を支援している		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事予定にて季節感を感じられる場所への外出や行事があり家族参加にて共に楽しんでいる		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族はもとより親族・友人などへの電話や手紙でのやり取りの支援行っている		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様だけではなく、親しいご友人等のご訪問もあり居室やリビング等で寛いだ時間を過ごして頂いています		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会があり、毎月本社に現状の報告を行い今後の取り組みにアドバイス受け身体拘束ゼロに向けて実践行っている		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関やユニット出入り口への施錠は行っていない。又、お客様の安全の確保の為ユニット出入り口にはチャイムがあり、出入りが把握できるようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は職印鑑の声掛にて謝罪確認行い、夜間は定時または随時の巡回を行い睡眠や呼吸。室温の確認行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬品や危険な物品は保管場所を定め管理行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的にヒヤリハットの取り組みを行い、職員一人ひとりが事故防止のための知識を学んでいる。又、事故発生時は管理者への状況報告行い対応の指示を受けている。事故後は再発防止についてのカンファレンス行い具体的な検討も行っている。		
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全ての職員は消防局に於いて定期的に救急法の指導を受けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練実施し、どんな場合でも対応できるようシミュレーションにて把握できている。避難持ち出しの準備も出来ている。又、町内会参加により地域の人々の協力も得られる環境にある。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	お客様の状態は常にご家族様に報告行い、今後の予測されるリスクについても理解いただいている。日々の安全対策も職員との話し合いを密に行い抑圧感の無い暮らしをして頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者一人ひとりの日々の体調は職員が把握し、変化や異変への気付きは速やかに報告行い対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬状況はファイリングし、薬見本も掲示しているので、いつでも服薬内容の確認が出来る。又、誤薬や飲み忘れの対策も出来ている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘での体調変化を避ける為、毎日適度な運動や水分補給にて規則正しい排便を促している。便秘がちな方には腹部をマッサージして排便の促し行い、排泄チェック表にて把握行っている。又、便秘状態が長引かないようにドクター指示にて服薬の調節も行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアの促しと就寝前の義歯洗浄で口腔内の清潔を保っている。又、訪問歯科にて定期的に口腔内の検診を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事量・水分摂取量の把握行い、体調の変化や栄養バランスも考慮して、必要な食事や水分が取れるように支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルに基づいて、職員一人ひとりがうがい・手洗い等行い予防している。又、感染流行の情報等には対応策行い実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所の衛生管理はチェック表があり、毎食事時の点検を行っている。又、食材の保存にも注意おこない(賞味期限等の確認)安全な食材の提供を行っている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>建物が近隣と同じ業者によって建設された為、違和感無くとけこんでいる。玄関周りには木々や草花をおき、暮らしの場所としての工夫をしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共同生活空間は季節感を取り入れ、安らぎ居心地良い空間づくりを行っている。採光にも配慮行い簾やレースカーテンにて調節行っている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングには応接セットがあり、利用者同志でお話したり休んだりしている。又、和室では横になり寛ぐ事も出来る。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室は馴染みのものを起き、利用者一人ひとりが家族と一緒に配置や環境づくりを工夫している。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室には換気扇があり空調に配慮している。又、温度、湿度の把握行い温度調節はコマ目に行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部は手摺りの設置や段差の無いフロアで、安心した生活が送れる。又、企業独自のデザインの椅子もあり身体機能に即した工夫がされている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>浴室やトイレ等は一目見て解るような表示があり、混乱しないよう配慮している。又、居室が解らなくなる方には独自の目印をつけ認識できる工夫をしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>1階には広いウッドデッキがあり、日光浴やティータイム等で寛いでいる。又、庭には野菜やお花の苗を植え利用者が手入れ行き成長を楽しんでいる。</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

プレイケア：一月のスケジュールを決めお客様の状態に合わせてながらレクリエーションに取り組んでいる。（スタッフの思い込みだけで対応しないようにしている）

自立支援：認知症が重度になっても出来ることはなるべく行っていただく。